長期経営計画(2020-2029)

学校法人　大阪成蹊学園

Ⅰ．長期経営計画

大阪成蹊学園では、2020（令和 2）年度から 2029（令和 11）年度にかけての長期にわたる経営計画を明らかにするものとして、「大阪成蹊学園　長期経営計画（2020-2029)」を策定しています。10 のアクションプランを柱として、建学の精神「桃李不言下自成蹊」を体現する「人間力」のある人材の育成を目的とする全学的な教育改革と、安定的な法人・学校運営を可能にする経営基盤・ガバナンスの改革に取組み、教育研究活動と法人経営の両面で多様なステークホルダーから信頼され、選ばれる学園をめざします。法人及び学園各校、各部門における各年度の事業計画の策定、日常の業務遂行におけるエビデンスベースの PDCA サイクルの徹底、自己点検・評価活動等を通じて、本長期経営計画の実現を図ります。

○　学校法人大阪成蹊学園　長期経営計画における 10 のアクションプラン

１．大阪成蹊学園の教育目標の達成　「人間力」教育の確立

（１）建学の精神「桃李不言下自成蹊」及び行動指針「忠恕」を体現する「人間力」のある人材を育成するための全学的な教学ガバナンスの強化

（２）学園各校及び各学部等のディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成する教育体系の充実

２．明るく、品格があり、活力のある学園風土の醸成

（１）学生一人ひとりの品格を磨く「PBM（Personal Brand Management）プロジェクト」の展開

（２）教職員一人ひとりが高い「志」と「使命感」を持ち、教育研究活動・学園運営に参画する組織文化の形成（FD・SD）

３．選ばれる学校であり続けるための成長戦略・将来構想の実現

（１）大学、短期大学、高等学校の多様な学生・生徒が学び合うキャンパスへの再編

（２）新学部・学科等の開設、既設学部・学科等の発展的改組による学びの充実

４．少子化・進学トレンドに対応した戦略的学生募集・入試制度の改革

（１）志願者数を増やし、入学者を安定的に確保する募集広報活動の展開

（２）高校生の学習ニーズに応える多様な高大連携事業の展開

（３）多面的・総合的評価を実現する入試方法の改革

（４）学園及び学園各校のブランド力を高める戦略的広報の展開

５．持続的発展を続けるための経営力の強化・財務基盤の整備

（１）学園各校の持続的発展を支える安定的な財務基盤の確立

（２）財政力と成長力のバランスある発展

（３）ガバナンス・コードに基づいた適正な学園運営

（４）理事会、評議員会等の適正な運営による経営機能の強化

（５）各ステークホルダーに対する経営・教学情報の適切な公開

（６）遊休資産の売却、活用

６．教育の質を保証し、特色ある教育を展開する全学的な教学改革の推進

（１）大阪成蹊学園教学改革 FSD 会議及び各プロジェクトを中心とした全学的な教学マネジメント体制の確立

（２）「大阪成蹊 LCD（Literacy：知識、Competency：行動特性、Dignity：品格）教育プログラム」を核とする全学的な「人間力」教育の展開

（３）エビデンス・教学 IR 情報に基づく検証・改善サイクルの徹底

（４）総長、学長のリーダーシップ及び、副学長・学部長等、本部長・部長等の中間職による組織運営の強化

（５）定期的な自己点検・評価活動の実施

（６）運営諮問会議や学生評価員等による多角的な点検・評価活動の充実

７．学生・生徒一人ひとりの成長を後押しする教職協働型の学修支援・学生支援体制の構築

（１）個々の学修状況や学生生活状況等のきめ細かな把握と、教職協働による指導・支援の充実

（２）免許・資格取得等に向けたサポート体制の充実

（３）教員・保育士等採用試験合格に向けたサポート体制の充実

８．学生一人ひとりのめざすキャリアを実現する教職協働型の就職支援体制の構築

（１）就職率、就職希望率を更に高める包括的な就活サポートプログラムの確立

（２）個々の就職活動状況のきめ細かな把握と、教職協働による指導・支援の充実

（３）学びの専門性を活かした業種・業態への就職の強化

（４）学びとキャリアを接続し、成長・変化を見える化するインターンシップ制度の確立

９．世界の多様な人々との関わりのなかでグローバル・マインドを育む国際交流プログラムの充実

（１）正課内外の学修が連関する語学・グローバル教育プログラムの確立

（２）留学制度の更なる充実と留学者の派遣・受入の強化

（３）グローバル・アクティブラーニングプログラムの充実

（４）協定校の拡大と国際交流プログラムの充実

10．地域における「知」と「人」の拠点を形成する産官学連携・研究活動・地域貢献活動の活性化

（１）企業や自治体等との連携による課題解決型の教育プログラムの充実

（２）各教員、教育研究組織等における研究活動の活性化

（３）公開講座の開講等による地域及び社会貢献事業の活性化

Ⅱ．将来構想

大阪成蹊学園は、卒業生の多大な支援のもと、創立 90 周年を迎えました。Society5.0 等の大きな社会変化の到来とともに、学校教育の在り方も大きく変化しなくてはいけない時期が到来しています。

大阪成蹊学園の教職員一同は、未来を担う人材の養成・輩出に向け、様々な改革に挑戦できることに大きなやりがいを感じ、入学者が更に増え、学生・生徒が成長していくことを楽しみにしています。

2023 年に創立 90 周年を迎え、2020 年に公表しました 2029 年までの長期計画を検証し、2029 年に向けた将来構想を以下のとおり更新して示します。（〇は実施済、☆は進行中を示す）

１．阪急京都線「相川駅」前に土地を確保し、8 階建ての新校舎（総床面積約 9,500 ㎡）を建設
（〇2023 年 3 月に竣工）
２．50 年以上の観光教育の伝統と実績を活かし、世界に視野を広げた観光・グローバル人材を養成する「国際観光学部」の開設
（〇2022 年 4 月に開設）
３．長年にわたり地域から開設を強く望まれてきた「看護学部」の開設
（〇2023 年 4 月に開設）
４．Society5.0 などの到来に伴い人材ニーズが高まっているデータサイエンス分野の最先端の教育を行う「データサイエンス学部」の開設
（〇2023 年 4 月に開設）
５．今後予測される社会の変化を見据えて、人材ニーズの高まる成長分野に関する「新学部」の開設
（☆2027 年の開設に向け構想を開始）
６．看護学部・データサイエンス学部と接続する「大学院研究科」の開設
（☆2027 年の開設に向け構想を開始）
７．約 400 人を収容でき、オーケストラによる演奏会や各種シンポジウムの開催も可能な「多目的ホール（蹊友会こみちホール）」の建設
（〇2023 年 3 月に竣工）
８．10 年間をかけて新キャンパスを整備
（☆2 期棟の建築に向けた計画の検討を開始）
９．教育の特色や教学の質保証に係る取組み、改革成果となる学生の成長・変化の広報強化
（☆広報体制を抜本的に見直し、体制の整備を開始）
１０．教育研究活動、業務を高度化・効率化する DX の実現
（☆未来の教育機関の在り方を見据えた教育研究活動や業務の高度化・効率化に向けた DX 推進体制の見直しを開始）

【長期経営計画】

事業活動収支計算書　　(単位：百万円)

費目／年度		2022(R4)年度		2023(R5)年度		2024(R6)年度		2025(R7)年度		2026(R8)年度		2027(R9)年度		2028(R10)年度		2029(R11)年度	
		補正	前年比	当初案	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
教育活動収支	収入合計	10,308	96	10,554	246	10,875	321	11,136	261	11,469	333	11,655	186	11,792	137	11,876	84
	支出合計	10,132	388	10,769	637	10,787	18	10,878	91	11,024	146	11,242	218	11,342	100	11,263	▲ 79
	教育活動収支差額	**176**	**▲ 292**	**▲ 215**	**▲ 391**	**88**	**303**	**258**	**170**	**444**	**186**	**413**	**▲ 31**	**450**	**37**	**612**	**162**
経常収支差額		**142**	**▲ 290**	**▲ 245**	**▲ 387**	**61**	**306**	**230**	**169**	**417**	**187**	**358**	**▲ 59**	**428**	**70**	**592**	**164**